

「乳児保育」における保育学科学生作成の 「3歳未満児の発達を促す手作りおもちゃ」作品展示報告

稲 員 祥 子

Report on the items displayed at the “Handcrafted Toys to Stimulate Growth of Infants 3 Years and Under Exhibit”
made by Junior College Students of “Infant Nursing”

by
Shyoko Inakazu

キーワード：発達と遊び、学生制作、授業実践、目・耳と手の協応、見立て・つもり遊び、大人との関わり、情緒の安定

1. はじめに

筆者は担当する「乳児保育」の授業の中で、乳児（ここでは3歳未満児を指す）の発達段階や遊びの重要性、発達を促す遊び・おもちゃについて講義を行っている。理論と実践を結びつけることにより学生達に考察を深めて貰うため、「発達を促す手作りおもちゃ」の作成を夏期休業中の課題としている。出来上がった作品は保育実習に持参して実際に保育の中で活用し、「月齢に合うものであったか」「関わり方は適切であったか」など評価・反省するように指導している。この取り組みは、将来保育者として保育の現場で活躍するであろう学生達の資質の向上を目指して、平成11年度より授業の一環として取り入れ試行錯誤を繰り返しながら現在に至っている。

一般に「乳児」といえば児童福祉法第4条で「満1歳に満たない者」と規定しているように0歳児（1歳未満児）を指すが、保育所保育全体の中で、3歳未満児の保育が3歳以上の子どもの保育と別の一つの分野を形成していること、乳幼児の発達は連続的に捉えられるべきであるという考え方や、人として生きていく上での基本的な力が身につくのが3歳頃であるなどの考えも多いことから「乳児保育」では3歳未満児をその対象として扱っている。従って、本稿でいう「乳児」とは3歳未満児（0. 1. 2歳児）を指すことを予めご了承願いたい。

毎年提出される作品は、いずれも学生のアイデアと工夫に満ちた手作りの温かみの溢れるものばかりである。感覚機能などの発達について考慮されていることは当然であるが、市販の

おもちゃにはない「手作りおもちゃ」ならではの温かさは、作る側の思いが伝わり、社会性を培う基盤となる情緒的な人間関係を形成するのではないかと考えられる。

今夏、本学園における社会的活動の一環として平成21年7月17日（金）～7月20日（祝）の4日間、シーモール下関専門店街2階ピアモールにて開催した「楽しい手作り遊び」（今号紀要に開催報告の全容を掲載）に「0・1・2歳児の発達を促す手作りおもちゃ」のコーナーを設け、以下の目的を持って学生の作品を展示した。

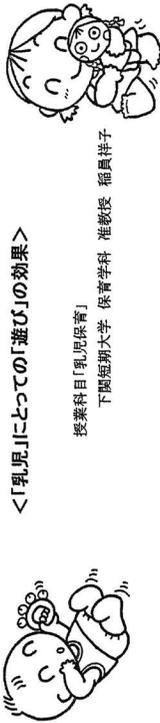
- ①乳児の発達にとっての遊びの大切さを知って貰う。
- ②手作りおもちゃの良さや遊ぶ楽しさを味わって貰う。
- ③本授業での取り組みを地域の方に知って頂く。
- ④保育学科学生の乳児の発達と遊びに関する意識の向上を図る。

次章では、会場配布物・展示作品・来場者の感想等についての詳細について報告したい。

2. 乳児の発達の特徴と遊び

乳児にとって遊びは「感覚器官」「運動機能」「社会性」の発達を促す重要な役割を果たしている。まず、今回の作品展で資料として配布した<「乳児」にとっての「遊び」の効果>（図1）と、乳児の発達の特徴と遊びの関係について、いくつかの文献をもとに筆者が作成した「乳児の発達と遊び一覧」（表1）を以下に紹介する。

図1 配布資料「乳児」にとつての「遊び」の効果＞全文紹介



＜「乳児」にとつての「遊び」の効果＞

授業科目「乳児保育」
下関短期大学 保育学科 准教授 福員洋子

感覚器官の発達を促す

生まれたばかりの赤ちゃんは何もできませんが、やがて動く物や、音のする方をじっと見つめたり、目で遊ぼうようになります。

5 か月ごろ、「模返り」ができる頃になると見たものをつかむようになり（目と手の協応）、やがて欲しい物に手を伸ばしてつかむようになります。6 ヶ月ごろ、「お座り」ができるようになると、両手を使って、持ち替えたたり打ち鳴らしたり、9 ヶ月ごろ、「はいはい」の頃には、物の出し入れやめぐる・はがす・破るなど指先を使った遊びができるようになります。

その後1歳以降は歩くようになり、つまむ・組を通すなど指先はさらに器用に発達していきます。

乳児期は目・耳・指先などの**感覚器官がめざましく発達する時期**なので、**目や耳を豊かに刺激する遊び、目と手の協応を促す遊び、指先の発達を促す遊び**を十分に経験させることが大事です。

運動機能の発達を促す

指先だけでなく、**運動機能の発達も目ざましいもの**があります。「模返り」「はいはい」「低い歩き」を経て、一人歩きができるようになります。走る、跳ぶ、もぐる、ボールを投げる・蹴る、登る、ぶら下がるといった様々な身体的機能が発達していきます。遊びの中でこれらを十分に体験することが発達を促すこととなります。

社会性の発達を促す

「遊びは社会性の発達を促すと言われていますが、生まれたばかりの赤ちゃんはまだ他の人と関わることはできません。いったい、いつ頃どのようにして友達と一緒に遊べるようになるのでしょうか？実は、まず特定の大人（家族では主に母親、保育所では担当保育士）との愛情深い「関わり（アタッチメント）」により人を信頼する基礎が築かれ、やがて他児を意欲し（1歳前後～）関わりが持てるよう

になるのです（2歳ごろ）。大人との愛情深い関わりにより「情緒が安定」。欲求を受け止めながら語りかける（感情的な関わり）ことにより、「言葉の発達」が促されます。好奇心旺盛な子どもは大人のことなどに興味を持ち真似（模倣）をすることで基本的な生活習慣を初め、様々なことを身に付けていきます。人形を赤ちゃんに見立てておんぶをしたり、お母さんになつたつもりで「ごっこ遊び」をしたり、夜寐に友達に興味を持ち、おもちゃの取り合いなど自分の思い通りに行かない葛藤を経験しながらやがて一緒に遊べるようになるのです。

つまり、**社会性の発達の出発点として、0歳児（特に前半）は、抱っこをして遊んだり語りかけたり、1対1のおやし遊びをするなど、大人が十分に関わってあげることが必要**なのです。



一人遊びも大切

「社会性を培う」「言葉の発達を促す」「感覚器官や運動機能の発達を促す」など乳児の発達を促すために大人が積極的に関わるのが大切であることがご理解いただけたでしょうか？

一方で、子どもが一人で遊ぶ（例えば、無心に空き缶におもちゃを入れたり出したりしている）はむやみに声をかけず、そっと見守ることも大事です。

二人遊びに役立っていることは、心ゆくまで自分の興味や関心を満たし、黙したり考えたりする力を豊かにするために**大切**なことです。



◎ 参考文献

- 「演習 乳児保育の基本」(株)南文書林 阿部和子 編
- 「シートブック 乳児保育 科学的観察力と優しい心」
株式会社 建橋社 川原佐公・古橋紗人子 編著
- 「0・1・2 歳児のクワダ運営」 ひかりのくに株式会社 川原佐公 編著
- 保育所 保育指針＜平成20年告示＞・解説書 厚生労働省

表 1 乳児の発達と遊び一覧

年齢（月齢）	発達の特徴	感覚器官・運動機能の発達を促す遊び	人との関わり・ことばの発達を促す遊び	適する遊び・おもちゃ（例）
0～3か月頃 （ねんねの頃）	2か月後半～ 焦点が合い、 音に敏感に 注視・追視	<u>目・耳への豊かな刺激となる遊び</u>	<u>大人との関わり遊び</u> <u>▽</u> （1対1のあやし遊び）	オルゴールメリー・モビール
3～6か月頃 （寝返りの頃）	5か月～ 見たものを掴む欲しい物に手を伸ばして掴む	<u>目と手の協応を促す遊び</u> ↓	↓	起き上がりこぼし ガラガラ・歯がため
6～9か月頃 （お座りの頃）	両手を使う 持ち替える 打ち鳴らす	↓	↓	人形・まり・コップ お手玉
9～12か月頃 （はいはい・たっちの頃）	つかむ・めくる・はがす 物の出し入れ・やぶる・吹いて音を出す つかまり立ち・伝い歩き	<u>指先を使った遊び</u> <u>▽</u> 乗ったり押したり引いたりする遊び	↓	物の出し入れ（空き缶・お手玉など）・紙をやぶる・シールをはがす・なぐりがき
1歳児	歩く・押す・つまむ・めくる 探索活動・模倣・象徴 ことばの獲得（一語文～二語文） 自立への過程の時期 （排泄・食事・着替え・・・） 他者への関心 生活＝遊び	<u>運動遊び</u> <u>指先を使った遊び</u> <u>▽</u> ↓	<u>受容遊び</u> （絵本・人形劇など） <u>子ども同士意識できる遊び</u>	積み木（3～5段積み・くずす） なぐりがき・鉄棒ぶら下がり 洗濯バサミ・パズルBOX・紐通し・玉指し板・棒差し・壁面を利用したおもちゃ
2歳児	歩く・走る・跳ぶ 象徴・見立て・つもり・模倣・探索活動 ことばの発達 自我の芽生え→自己主張・かんしゃく 友達への意識 喜び・楽しさの共感	↓ ↓	<u>受容遊び</u> （絵本・人形劇など） <u>見立て・つもり遊び</u> <u>子ども同士関わる遊び</u> （但しまだ平行遊びが多い）	ボールを蹴る、投げる・もぐる・段ボールの中に入る・なぐりがき・パズル・鉄棒・ぶらんこ・紐通し・型落とし・並べる・積み木・箱に詰める・穴に通す・同じものを集める・そろえる・重ねる・広げる・折り紙を半分にする・三輪車・簡単なままごと・電話

3. 「手作りおもちゃ」展示について

3・1 作成の経緯

今回の展示作品は平成20年度保育学科1年生（現2年生）が「乳児保育」の夏期休業中の課題として作成したものである。1人1～3作品合計約43作品が提出された。

- 作成の条件は
- ①乳児の発達を促すものであること。
 - ②衛生・安全面に配慮していること。 以上2点

材料は上記の条件を満たしていれば何でも良く、「本やインターネットなどの文献を参考にしても良いしオリジナルのものでも良い。」とした。

その結果、提出された作品のうちオリジナル作品は約3割、文献を参考にしているが自分なりのアイデアを盛り込んだものも数多くあった。制作費は1,000円以内が多く、2,000円5名、3,000円2名、中には家にあるものを利用したため0円という学生もいた。

3・2 作品内容

今回出品した作品を大きく2つに分類してみる（表2、3参照）。

また、それぞれ代表的な作品を紹介する（写真1、2参照）。

表2 目・耳と手の協応、指先の発達を促すおもちゃ

握ったり・振ったり・指で押ししたりして遊ぶ		
ガラガラボン!!!	不思議なクッション	くまのガラガラ
ちっこいクッション	ガラガラ	くまさんのなかよし家族
サイコロガラガラ	お魚さん	
マジックテープ・ボタン・スナップボタン等でつけたり外したりして遊ぶ		
お庭であそぼ	おかたづけBOOK	ブロックキューブ
みかん	うさぎさん	開けたり閉めたりくっつけたりはがしたりとめたりはずしたりパッチンしたり
りんごの木	ベタベタベリベリ	
ボタン・スナップボタンでつなげて遊ぶ		
さかなのくさり	三角くん	わかっつなぎ
三角ポッチ		
引っ張り出したり中に入れたりして遊ぶ		
出てくるよ!BOX	森のひみつ	食いしん坊うさちゃん
動物の音楽隊	パクパクぱっ君	
投げて入れたりの的に当てたりして遊ぶ		
輪なげうさちゃん	アンパンマンまと当て	
紐を引っ張って動かして遊ぶ		
ハラベコガマ太		
振って穴に落として遊ぶ		
ふりふりとんとん		

<さかなのくさり>

《作り方》 魚の形に切ったフェルトの中に綿を入れる。目にボタン、尾びれにボタンホールをつけ、同じものを沢山つくる。

《遊び方》 尾びれのボタンホールに目のボタンを留め、繋いで遊ぶ。

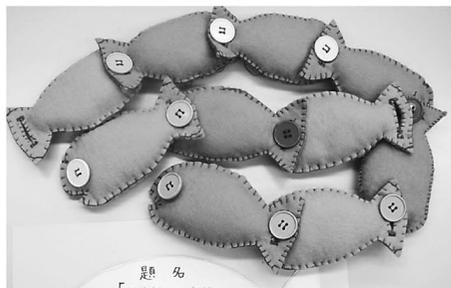


写真1 さかなのくさり

表3 見立て・つもり遊びができるおもちゃ

本物に見立てて遊ぶ		
ころろホットべんとう	ふりふりうさぎ	保博農園秋の大収穫祭 2008
からくりカタナ	いちごのショートケーキ	魚つり
イメージを膨らませて遊ぶ		
ふくわらいぶたちん	にわとりくん	きせかえほん
たまごがボン!ひよこがボン!	にわたりのたまご	お花さんとはちさん
出来上がりを想像して組み合わせて遊ぶ		
布パズル	モコモコキューブの絵合わせ	

<ころろホットべんとう>

《作り方》 フェルトの中に綿を詰め、「おにぎり」や「卵焼き」「ウィンナー」「ブロックリー」等おかずを作り、弁当の空き容器に入れる。

《遊び方》 本物に見立て、容器に並べたり、食べる真似(つもり遊び)をする。ごっこ遊びにも発展できる。



写真2 こころホットべんとう

見立て・つもり遊びが出来ると同時に指先の発達を促すことができる、または、月齢によって遊び方が異なるなど、はっきりと分類しきれない作品も多いが、大きく2つに分けてみた。また、全ての作品に、与える際に大人が語りかけたり遊びに関わったりすることで、情緒の安定や言葉や社会性の発達を促すことが期待できる。

会期中、保育学科学学生や担当教員(筆者)が立ち会って、年少の来場者には興味を持ったおもちゃで遊んでもらい、大人の来場者にも実際におもちゃに触れて頂き遊び方や作品についての解説を行った(「3・3・2 遊びのコーナー」参照)。

3・3 展示について

3・3・1 展示状況

展示状況・方法を以下に紹介する（写真3参照）。



写真3 展示風景

展示の際、作品には「作者氏名」「作品題名」「遊び方」「工夫した点」などをカードに記入し学生一人一人が作品のイメージに合わせて装飾を施したものを添えた（写真4参照）。

また、希望者には5作品「ふくわらいブタちゃん」「出てくるよ！BOX」「保博農園秋の大収穫祭2008」「ブロックキューブ」「いちごのショートケーキ」の制作方法の配布資料と、担当教員が作成した資料<「乳児」にとっての「遊び」の効果>を持ち帰ることが出来るようにしたところ、制作方法については70～120部、資料については約50部の持ち帰りがあった（図2参照）。



写真4 作品展示例

図 2 制作方法の配布資料

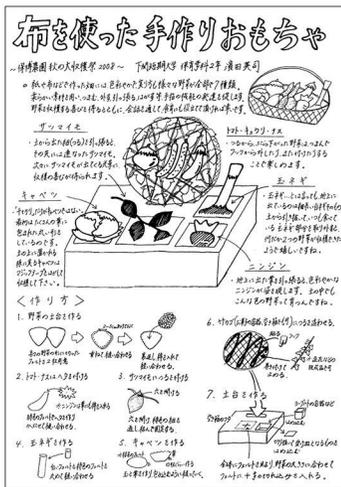


図 2 - 1 保博農園秋の大収穫祭 2008



図 2 - 2 ブロックキューブ

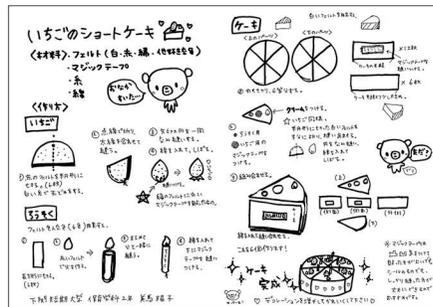


図 2 - 3 いちごのショートケーキ

3・3・2 遊びのコーナー

制作方法を配布した内の 2 作品（「出てくるよ！BOX」「ふくわらいプタちゃん」）については展示テーブルとは別にコーナーを設け、担当教員（筆者）と一緒に遊びながら、じっくり関わった。年齢の低い乳幼児は、ただ目の前におもちゃがあるだけでは遊び方が分からず、遊びへのきっかけ作り（導入）が大切と考えたからである。

「出てくるよ！BOX」について



写真 5 「出てくるよ！BOX」で遊ぶ乳児（生後 11 ヶ月）



図 3 「出てくるよ！BOX」の制作方法の配布資料

《対象年齢》 お座りが出来るようになって両手が自由に使えるようになった生後10ヶ月頃から1歳後半にかけての乳児

《目的》 目と手の協応を促す（感覚器官の発達）

《作り方》 粉ミルク等の空き缶に布をかぶせ口の部分にゴムを入れて絞る。（図5参照）

《遊び方》 ボールやチェーンリング、ハンカチをつなげたものやお手玉などを中に入れたり、手を入れて中から取り出す。

《反応》 初めは見よう見真似で遊んでいた子どもが次第に夢中になっていく様子にどの同伴の保護者も、「こんなに夢中になって遊べるんですね。」と驚いた様子で、「作り方も簡単そうなので家に帰って自分で作ってみます。」と制作方法の配布資料を持って帰られる方が多かった。

「ふくわらいぶたちゃん」について

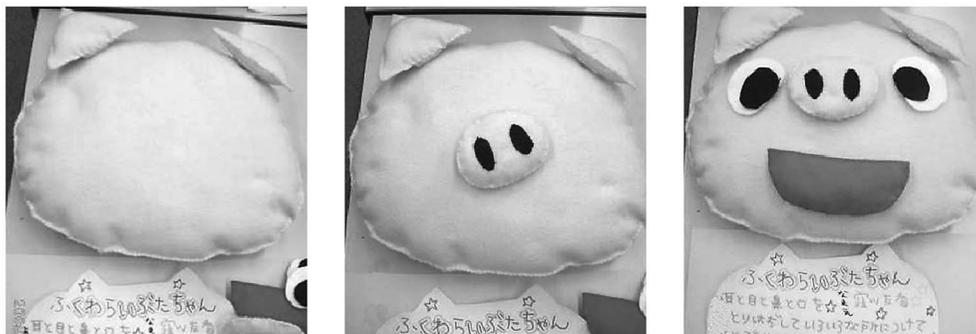


写真6 ふくわらいぶたちゃん

《対象年齢》 目・耳・口など顔の部位がわかり始める1歳過ぎ頃から

《目的》
 ・目と手の協応を促す（感覚器官の発達）
 ・おもちゃの顔を本物の顔に見立てる

《作り方》 フェルトの中に綿を入れてブタの顔の輪郭を作り、同じくフェルトで作った目・鼻・耳・口のパーツにマジックテープの凸の方だけを利用し縫い付ける。こうすることで、付けた外したりしやすくなっている。これは、作っているうちに偶然ひらめいたアイデアだそう。

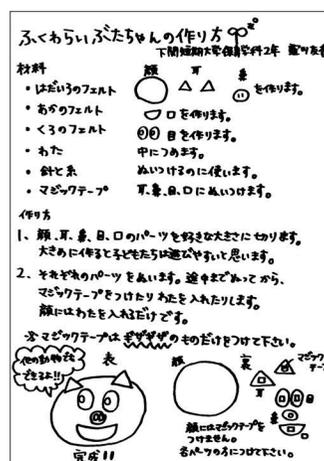


図4 ふくわらいぶたちゃんの制作方法の配布資料

《遊び方》 「これはお目々ね。お口はどこかな？」と話しかけながらパーツをのせて遊ぶ。

《反応》 月齢の低い乳児ではパーツをつかんで感触を楽しむだけだが、月齢が高くなるにつれ、言葉掛けに応じて各パーツを選んだり、のせたりする。

4・5歳以上の子どもでは、目隠しをして（目をつぶって）「福笑い」として遊べる。今回の遊びのコーナーでは、親子で遊びを楽しむ姿もあった。（写真7参照）



写真7 「ふくわらいぶたちん」で遊ぶ親子

4. 来場者の反応と感想

展示会場には担当教員が連日立ち会った為、来場者の反応を観察することができた。同時におもちゃに触れて頂きながら、遊び方や作品についての解説を行ったことで、来場者の声（感想）を聞くことが出来た。来場者の反応と筆者が直接聞いた感想を紹介したい。

4・1 反応

様々な年代の子ども達の遊ぶ様子から、「ふくわらいぶたちん」の例に見られるように、発達による遊び方の違いを間近で見ることが出来た。

日頃はテレビゲームで遊ぶことが多いという二人の男子小学生が、同じ形の魚の目（ボタン）をつなげて遊ぶという実にシンプルなおもちゃ（「さかなのくさり」）に没頭していた。乳児では目（ボタン）のつけ外しを楽しむが、彼らはつなぐ形を変えたり、どちらが早くつなげるか競争するなど、次々に遊び方を自分たちで工夫し作り出している。その様子に子ども本来の遊びの姿を観察することが出来た。

親子で遊びを楽しむ姿や、介護の現場でも適用できそうだ（簡単なものなら作るのも良い）というご意見から、遊びは子どもだけのものではないこと、各世代間の交流・コミュニケーション

ンにも役立つものであることなど、遊びの意義と「手作りおもちゃ」の良さを再認識することができた。

4・2 感想

- 下関市内で託児所を経営する女性
手作りの温かみが良い。積み木は木製の物だと投げた時に危険であるが、この布製の積み木だと安全で良いですね。是非保育の中に取り入れさせていただきたい。

- 東京都の保育所で3歳未満児クラスを担当する女性
勤め始めて2年目なので今後の保育に活かす参考になった。「出てくるよ！BOX」と同じものを勤め先の園長の勤めで作って保育に活用している。中に入れるチェーンリングは外れにくいよう二重につなげている。

- 介護施設で働く女性
高齢者にも喜ばれそうなおもちゃだ。遊ぶことは勿論だが、簡単なものであれば一緒に作るのも良いと思った。

- 看護学校に通う女子学生2名
小児科病棟での実習の際に準備するおもちゃの参考になった。発達についてもよく解り勉強になった。

- その他
 - ・子どもが高校の保育学科に入学したので教えてやりたい。
 - ・中学生の子どもの夏休みの宿題にちょうど良い。

5. 考察

冒頭で記したように、今回、以下4点の目的を持って作品展示を行った。

- ①乳児の発達にとっての遊びの大切さを知って貰う。
 - ②手作りおもちゃの良さや遊ぶ楽しさを味わって貰う。
 - ③本授業での取り組みを地域の方に知って頂く
 - ④保育学科学生の乳児の発達と遊びに関する意識の向上を図る。
- 従って、以下それぞれについての考察を述べたい。

5・1 乳児の発達にとっての遊びの大切さを知って貰う

アンケートの「小さい子向けだからといって、簡単に作ってはいけないと思った。」「育児中なので、大変参考になった。自宅では是非作ってみたい。」という回答（本誌『楽しい手作り遊び』作品展開催報告参照）や、筆者が作成した配布物＜「乳児」にとっての「遊び」の効果＞が約50部持ち帰られたことから、乳児期の遊びの大切さを伝えることが出来たのではないかと感じる。

遊びのコーナーでは、筆者や学生が実際に乳児に対して遊びへのきっかけ（導入）を作り、一緒に遊んでじっくり関わることで、乳児期の遊びの特徴や関わり方を保護者に伝えることができた。

5・2 手作りおもちゃの良さや遊ぶ楽しさを味わって貰う

アンケートの回答「手作りのもので（子どもが）あんなに喜ぶとは思わなかった。」「子どものおもちゃなので、安全・自然なもの（布・ボタン等）を使っているところが良かった。」「自然素材でカラフルなおもちゃは大人でも楽しめる。」等から、来場者に「手作りおもちゃ」の良さを実感して頂くことが出来たと感じている。

対象年齢である乳児は勿論のこと、幼児・小学生から大人までおもちゃに触れ楽しんでいた様子や、来場者の感想・アンケートの回答「（3歳女子・7歳男子の母親）子どもと一緒に楽しませてもらった」「子どもが（さっそく口に入れ）、楽しそうに遊んでいた。」「おもちゃを体験するコーナーがあって良かった」「『さかなのくさり』は何匹でも繋がっていくのが楽しい」「『みかん』の中身に感動。皮をむいたら果汁がこぼれそう！」から、来場者に「手作りおもちゃ」で遊ぶ楽しさを十分に味わって頂けたと思う。

5・3 本授業での取り組みを地域の方に知って頂く

今回「楽しい手作り遊び」をテーマとした作品展に出展することで、平成11年度より継続してきた「乳児保育」の授業の取り組みを地域の方々に知って頂くことが出来た。学生の手作りの作品であることを知って感心される方が多く、アンケートの「どの作品も丁寧に心を込めて作ってあった。」「安くて楽しいおもちゃは沢山売っているが、どうしたら子どもが喜ぶか考えて手作りするおもちゃには代えがたいと思う。」「沢山の手作りおもちゃを考えて、体に優しく安価で喜ばれる作品をこれからも作って欲しい。」という回答から、乳児の遊びについて考え実践する取り組みと、学生の授業に対する姿勢を評価して頂けたと感じている。

5・4 保育学科学生の乳児の発達と遊びに関する意識の向上を図る

「手作りおもちゃ」を作成した学生達（保育学科現2年生）は、出品するにあたり、乳児の発達について再度理解し、「自分の作品が乳児の発達にどのような効果をもたらすのか」「実際の関わり方はどう工夫すれば良いか」など、自分の作品を改めて見つめ直すこととなった。この度の作品展に出品することで乳児保育への関心が一層深まったといえる。これは、その後の保育実習で「3歳未満児クラス」での実習を希望する学生が多かったことから窺える。作品は保育実習に持参し、実際に保育の中で活用させていただき、「どんな月齢でどのように関わったか」「予想していた子ども達の反応と実際の遊び方に違いはあったか」「乳児の発達を促すものであったか」など、考察するように指導している。この結果報告は、これまでの授業での取り組み等と併せて今後の課題としたい。

今回の展示については、保育学科の学生全員（1・2年生）に作品展の鑑賞を義務付けた。1年生においては、先輩の作品を鑑賞することにより、乳児の遊びへの関心が高まり、今年度の課題制作の参考になったようである。

展示時期が前期試験の直前であった為、当日の学生の手伝い（作品の解説、遊びの導入・援助等）は希望者のみとしたが、参加した学生からは、「子ども達がどのようにおもちゃで遊ぶか、実際に見ることが出来て勉強になった。」「関わり方に工夫があることを実感した。」「シンプルなおもちゃほど遊びが長続きするようだ。」など、大変有意義であったという感想の声が上がった。従って、次回同じような催し物を企画した場合は、おもちゃを作った学生全員に参加させ、来場者がどのように遊んだのか実際に立ち合わせる機会を設けたいと考えている。

5・5 今後の展望

今回の作品展では、当初の目的を達成することが出来たといえよう。課題点を検討し内容や方法に工夫を加え、今後もこのような催物を継続したい。

また、今回上記4つの目的とは別に、アンケート回答や筆者の会場観察を通して、次の2点についての成果があった。

1つは、「手作りおもちゃ」の良さや遊ぶ楽しさを味わうだけでなく、「子どもの為に作ってみたい」という保護者の思いを沸き立たせたのではないかという点である。

もう1つは、「手作りおもちゃ」が子・親・祖父母間のコミュニケーションの橋渡しの役目を果たす可能性を持っているのではないか、ということに気づいた点である。

従って今後は、

- ・乳児を持つ親を対象に、乳児が喜ぶ「手作りおもちゃ」の作り方や遊び方を伝える機会を設ける。
- ・子・親・祖父母と一緒に「手作りおもちゃ」で遊んだり、作ったりする機会を設ける。

等、展示以外にも活動の幅を広げたいと考えている。

この度の作品展で得たものを糧とし、今後も乳児の発達と遊びの理論と実践について、様々な取り組みを通して研鑽を深め、「乳児保育」の授業を一層充実させたい。

6. 謝辞

本作品展の企画・運営にご尽力下さいました本学栄養健康学科長河野光子教授、広報・会場設営等にご協力頂いた桂武人広報進路支援課長、湯ノ口文子主事、記録写真撮影・アンケート集計等を行った高杉志緒講師、開催日に協力した保育学科学生、展示会に足を運んで頂いた皆様に、厚くお礼申し上げます。

同時に、「乳児保育」における「発達を促す手作りおもちゃ」制作に熱意を持って取り組み、心温まる作品を提出した平成 20 年度保育学科 1 年生（現 2 年生）に記して感謝します。

参考文献

- 1) 阿部和子 編：「演習 乳児保育の基本」 萌文書林, 東京都, 2007
- 2) 川原佐公・古橋紗人子 編著：「シードブック 乳児保育 科学的観察力と優しい心」 建帛社, 東京都, 2006
- 3) 川原佐公 編著：「0・1・2 歳児のクラス運営」 ひかりのくに, 大阪市・東京都, 2009
- 4) 厚生労働省：「保育所 保育指針<平成 20 年告示>」 フレーベル館, 東京都, 2008
- 5) 厚生労働省：「保育所 保育指針 解説書」 フレーベル館, 東京都, 2008